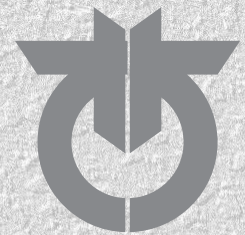


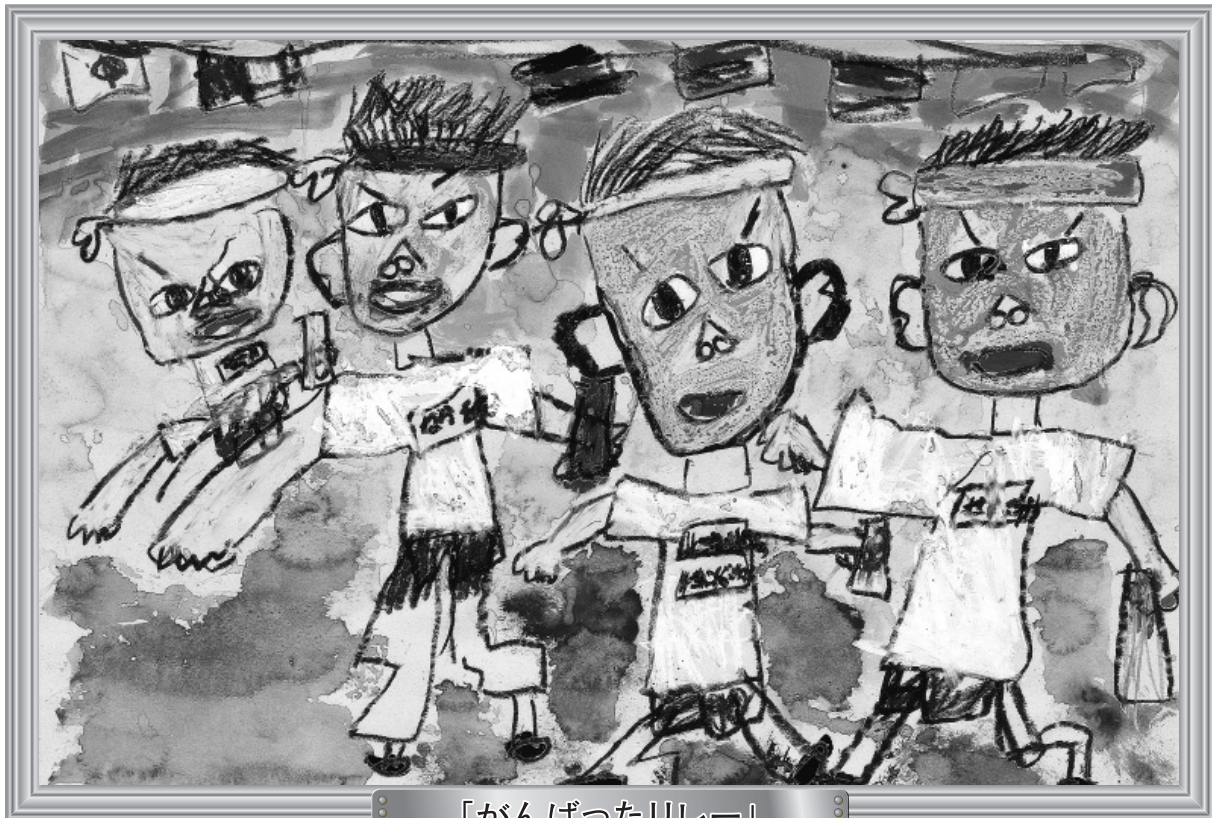
人権教育広報

ふれあい

編集・発行 桶川市人権教育推進協議会



第6号



「がんばったリレー」
桶川西小学校 2年 原口 峻

人権標語

ありがとう 気もちつなげる だい一步

●加納小2年 岩崎すみれ●

ありがとう きずなをふかめる あいことば

●桶川小4年 前島功紀●

思いやる 心一つで 変われるよ

●加納小6年 大友一馬●

話してよ 一人で悩まず 僕たちに

●加納中1年 西永健一●

みな同じ 命の重さ 無限の夢

●桶川西中2年 武田沙輝子●

広げない あなたが止める 悪口連鎖

●桶川中3年 塚本由佳●



命を大切に育む「心あたたか朗読会」

川田谷小学校

本校では、「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育成する」を人権教育目標とし、教育活動全体を通じて児童の人権意識を高める取組をしています。

その一つとして、十二月一日から十二日を川田谷小人権週間として人権標語の掲示や人権作文集の放送、人権講話を行いました。また、十二月十日には、俳優の樹原ゆりさんをお迎えして、「心あたたか朗読会」を実施しました。

高学年の児童は、「ハッピーバースデー 命輝く瞬間」(青木和雄原作)の朗読を聞き、次のような感想をもちました。

- ・ 家族や友達の大切さ、自分の命の大切さが分かりました。自分がつらい時、傷ついた時に家族や友だちが支えてくれることは、いいことだと思います。
- ・ いじめに立ち向かった、あすかの勇気がすごいと思いました。いじめられている人がいたら手を差しのべられる人になりたいです。
- ・ 「産まなきゃよかった。」とママに言われ、あすかが声を失ったとき、泣いてしまいました。私は、誕生日をみんなに祝ってもらえて幸せだと思いました。

「心あたたか朗読会」を通して、かけがえのない命を大切にしようとする心が着実に育まれています。



地域と共に作る豊かな体験

桶川西小学校

本校では、「差別の不合理に気づき人権尊重の精神を培い、生活の中にある偏見や差別をなくしていく態度を育てる」を人権教育目標に掲げ、全ての教育活動を通じて人権教育を推進しています。また、文部科学省の人権教育総合推進地域事業研究協力校として「あいさついっぱい 笑顔いっぱい」の地域づくりのテーマで、学校・家庭・地域が一体となった人権教育に取り組んでいます。

十一月一日(土)に本校PTA主催の「くすの木まつり」が開催され、保護者と地域ボランティアの方々の協力で子どもたちは、豊かな体験をすることができました。

開会式では、郷土芸能クラブの子どもたちが「餅つき踊り」を発表しました。地域の方のご指導により、練習を重ねてきた成果です。かけ声をかけながら楽しそうに餅つき踊りを踊っている様子を見て、地域の伝統を全校児童で味わうことができました。また、荒縄・しめ縄作りコーナーでは、地域の方に教えていただきながら、慣れない手つきで縄をない、しめ縄やクリスマスリースを親子で協力して作りました。そのほか、牛乳パック工作、エコ紙袋作りなど親子で体験できるコーナーがあり、地域との交流や親子の触れ合いを深め、郷土への愛着を深めています。



本校では、学校教育目標「気づき、考え、実行する生徒」を受けて、人権教育目標「①人権意識を高める。②人権に関する正しい理解を深める。③様々な人権課題を解決しようとする態度を育てる。」を掲げ、全ての教育活動を通じて人権教育を推進しています。その中から二つの実践を紹介します。

一 学年別啓発授業の実践

第一学年は「公平ってどんなこと」と「ちがいのちがいの」の二つのテーマで人権の大切さを感じさせました。第二学年は、「あなたならどうする」というテーマで、差別に直面した場面にいかなる行動をとるべきか考えさせました。第三学年は、聴覚に障害のある方の講話を拝聴後、福祉体験活動を行いました。その後、全生徒が人権作文を書きました。人権の大切さと差別の解消に向けての努力を生徒一人一人が考えていました。



子どもたちが笑顔の中で活動したり、話し合ったり、話し合ったりするなど人間関係づくりにも役立っています。

本校では、人権意識の高揚を図り、生徒の思いやりの心を育み、障害者と共に生きる社会について考えるため、「ふれあい講演会」を毎年開催しています。今年度は、声楽家の田中玲子さんと題したメッセージライブを、生徒・保護者対象にして桶川市民ホールで開催しました。

「ふれあい講演会」の感想

- ・ 一年女子 最後におっしゃっていた、守ってほしいこと。特に三つ目の偏見をもたないでほしい。「この世界には、自分と同じ人がいないのであって、自分らしさがある。」が印象に残りました。これからは、一人一人を大切に、一人一人を認めあって生活していきたいです。
- ・ 三年男子 僕は、自分の中にある可能性と、どんな夢でも挑戦する勇氣というものを教



わった気がします。この話は、一生の宝物となると思います。

また、一学年では、福祉体験学習として、桶川市聴覚障害者福祉会の北野義博さんを招き、聴覚障害についてのお話や手話についての実技をしていただきました。

「福祉体験学習について」の感想

- ・ 一年女子 この講演の話を聞いて、改めて私は、障害者の方のことをもっと理解していかなければいけないな、と思いました。



人権課題の解消を目指す生徒の育成

桶川西中学校



障害者と共に生きる社会について

桶川中学校



地域の方々とふれあいながら

朝日小学校

本校では、学校教育目標「豊かな人間性と自ら学ぶ意欲をもってたくましく生きる児童の育成」を受け、人権教育目標を「人間尊重に徹し、人権尊重の高揚を図り、人権に対する正しい知識と理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる。」として教育活動を行っています。

運動会の際には、地域の高齢者の方々に福祉委員会の児童が招待状を出し、三年生が作ったペンダントをプレゼントしています。そして、一緒にお話するなどして交流を深めています。その際には、六年生の児童が接待をしています。高齢者の方々と接する機会が減っ

てきている子どもたちにとっても、大変有意義な時間となっています。

また、四年生の総合的な学習の時間には「今、私たちにできることは」という単元で、福祉について学習しています。具体的には、車いすの体験やアイマスク体験などを通して、体の不自由な人の気持ちになって考えられるような、体験をしています。その他にも、聴覚障害のある方々の話を聞くなどをして、学習に生かしています。

これらは、活動の一端ですが、その他の教育活動の中でも地域の様々な方との交流を通して、相手の立場を理解できる心を、育んでいけるよう取り組んでいます。



豊かな体験学習を通しての人権教育

日出谷小学校

本校では、学校教育目標の一つである「思いやりのある子」を目指し、全教育活動を通して人権教育に取り組んでいます。

その一つとして、四年生の総合的な学習の時間に福祉の体験学習を実施しています。車いす、点字手話、アイマスクなどの体験やさまざまな人との交流を通して、思いやりの心を育てたり、障害のある人への理解を深めたりしています。そこで、体験学習後、子どもたちは次のような感想をもちました。

・身体に障害のある人は、わたしたちの何倍も努力していることがよく分かりました。

・車いすののつてみると、小さな段差や階段がとてもこわかったです。これからは、困っている人がいたらすぐに手伝いたいです。

・アイマスクをして歩くと、前が全然見えなくて、転びそうになりました。誘導するときには、相手の気持ちを考えて誘導することが大切だと思います。

このように、子どもたちは相手の立場を理解できるようになってきました。今後も、全教育活動を通して人権教育を積極的に推進し、思いやりの心を育てていきたいと思っています。



本校の正門を入ると、正面に「ハートフル桶西」と書かれた横断幕が見えます。これは、本校の合言葉です。又、教育方針の項目の一つにも「思いやりの心を養い、積極的に人のためにつくす力を育てる」というのがあります。

人権教育推進委員会としては、右のような合言葉や方針に則り、「同和教育及び人権教育の指導と実践の推進にあたる」という内容で、各学年毎の取組を行っています。

第一学年では、人権教育アニメ「旅立ちの日」を鑑賞します。この作品は、いじめの対応、家族のつながり、障害者の社会参加がテーマとなっています。昨年、一昨年もこのアニメを使用しており、おおむね好評です。

第二学年は、戦争は最大の人権侵害であるとの考えから、平和講演会を開いています。本校では、ここ数年修学旅行は沖縄に行っています。

今年も旅行先で、元ひめゆり学徒の与那覇百子さんを講師として、「沖縄戦を体験して平和と生命の大切さを知る」という内容の講演会を行いました。生徒たちも真剣な眼差しで聴いていました。平和祈念公園では、クラス毎に「平和への誓い」を読み、千羽鶴を奉納し、黙とうを捧げました。

第三学年では、外国人に対する偏見や差別・発達障害に対する理解や支援、家族や地域の協力をテーマとした人権教育アニメ「この空の下で」を鑑賞する予定です。

「ハートフル桶西」を基本理念に、豊かな心を持った生徒が巣立って欲しいと願っています。

人権教育ビデオの紹介

〈ひまわりのように〉(アニメ42分)



(概要)
小学六年生の沙也香の父・洋平は、リストラのため転職せざるをえなくなり、たも香は転校先の学校で真美と仲良くなり、真美の父は洋平の会社の社長でした。一方洋平は、畑の仕事をうまくいかず、ある日自殺を図ろうとします。洋平の自殺未遂は、たも香のクラスでも噂になり、偏見の眼にさらされることになってしまいます。

〈桃色のクレヨン〉(アニメ28分)



(概要)
美奈子は、八年ぶりに外国から帰って来るとこの雪に再会できることが楽しみ、雪のことを友達に自慢します。ところが、再会した雪には、知的障害があることを父から知らされます。戸惑った美奈子は、そのことを隠すため、みんなにウソをついてしまいます。そのウソがばれて、美奈子はクラスの皆から仲間はずれにされてしまいます。

※視聴をご希望の方は、教育委員会までお申し出ください。



「ハートフル桶西」を合言葉に

埼玉県立桶川西高等学校

人権作文

人それぞれの 自分らしさ

桶川小五年

松村 美那

ある日、新聞を読んでいると、おなやみ相談コーナーに、こんななやみがありました。

「初めて出します。私は、生まれたときから目にあざがありません。ところが目にあざがあります。」

「どうにかどうにか相談したら、私じゃなくなるって言われます。どうしたらいいかなやんです。アドバイスをお願いします。」

「あっ。」

「私はさげんでしまいました。私とやんでるんことが全く同じだったからです。」

「なやんでるのは私だけじゃないんだ。」

心がすうつと楽になりました。一週間後にまた見ると、ほかの人からはげましの文が来ていました。

「私もあなたの友達だったら、うつらないでと言っていたと思います。」

「私にはそれぞれの個性がある。」

「人にはそれぞれの個性がある。」

た。

の意味が、よく分かりませんでした。と言われました。そのとき私は、そ

なくなくなっちゃった。「お、それじゃ、あなたじゃ

前に、友達にどうにかどうにか相談したら、

「どうにかどうにかどうにか。」

「どうにかどうにかどうにか。」

「どうにかどうにかどうにか。」

「どうにかどうにかどうにか。」

「どうにかどうにかどうにか。」

「どうにかどうにかどうにか。」

「どうにかどうにかどうにか。」

「どうにかどうにかどうにか。」



つまり、人それぞれの「自分らしさ」があるってこと。またそれは、自分のしるしでもある。だから、自信をもって道を歩いてみて。ちゃんと支えてくれる人がいるから。人は生まれたときから一人じゃないから。」

育てよう 一人一人の 人権意識

人権課題解決のために、私たち一人一人が人権感覚を磨き、自らの課題として受け止め、日々の実践に向けて努力していきましょう。

桶川市教育委員会生涯学習課
〒363-0012 桶川市末広 2-8-29
☎ 048-728-4111